コスタリカ紀行

『はじめに』

1991年にカリブ海のケイマンブラックでアメリカ人からココ島のハンマーヘッドシャークのことを聞き最初は信じられませんでした。

その後、ダイビング雑誌や衛星放送でアメリカのTV番組を見て本当と分かり、当初96年にエントリーして98年12月に行く予定でした。

しかし、予約した船(アンダーシーハンター)の米国代理店が倒産したため、新船のシーハンターに予約し直して、やっと4年越しの2000年8月に行くことができました。

『ココ島』(8/14~24)

1.ダイビングについて

ハンマーヘッドシャークは生き物地球紀行の1000匹までは出ませんでした。最大100匹ぐらいの群れが現れ、ほぼ毎ダイブ見れました。1つ前のクルーズ(キャンセル待ちしていた8/1~8/11)では2000匹現れたそうです。

ザトウクジラが水面の至近距離で見れましたが、水中に入るチャンスを逃したので撮影できませんでした。

イルカはダイビング後、シーハンターへ戻る時に良く見かけ、スノーケルで何回も水中で見れて撮影もできました。

マンタは人見知りをしないため水面、水中共に撮影できました。

ギンガメアジは今まで見たことのないスゴイ群れ(おそらく3000~4000匹)が見れました。

ホワイトチップシャークは毎回、飽きるほど見れました。

バットフィッシュは1回だけ水深10mのところできょろきょろ観察し、充分撮影できました。

ナイトダイビングはしていません。理由は昼間潜ったココ島の湾(?)内で透明度が悪くまた魚影も少なく、ガンガゼが半端でなく多いため、余り人気がありませんでした。

1m以上のワッファーは好奇心旺盛で時々、水面近くで2~3匹がグルグルと至近距離で回っていました。

ロブスターが多くほとんど毎回見れました。

ハンマーヘッドシャークに混じって時々、シルキーシャークが現れてスリルがありました。

カレントが強いポイントで自家製のカレントフック2本をフック用特性ベルトからしっかり岩にロックして仁王立ちで撮影していると、ガイドが興味深くその光景を撮影していました。

ココ島の総合的感想は、とにかく魚影が非常に濃いので、撮影はマニュアルでしないと手前に魚が入ってピンボケになります。また雨期のため海の中は暗くライトなしでは撮影が難しい。しかしカレントが強いポイントは大物が多く、水中ライトは水の抵抗が大きいので操作が困難になりライトを使う判断が難しかった。

(水温27度、気温31度、ダイビング本数21本)

ココ島の名前の由来はココヤシのココで「椰子の島」という意味で、1978年に国立公園になり、1997年にユネスコの世界自然遺産に指定されました。

2. ココ島について

ココ島はその昔、海賊が略奪した金銀財宝を隠したと云われる宝島伝説で有名ですが、最近では映画「ジュラシック・パーク」のモデルで有名になり、木と岩だけの荒々しい島で小さな滝が数本あり、ニューギニア島奥地の標高 2000mにある海から隆起した山々を思い出しました。また僅かにあった浜ではレンジャーがサッカーをしていました。

ココ島の周りには小さい島が沢山あり、鳥のコロニーになっていました。

雨期の真っ最中のため、ものすごいスコールが何度かきてダイビング時間をずらしました。島内観光は生物が余りいなく、滝を見るだけで険しい坂道を登るため人気がありませんでした。

ココ島から 10 マイル四方は漁業禁止で、国のレンジャーが島にあるハウスからボートで始終見張っていますが、高価なフカヒレ(1kg 7,000円)を目当てに密漁者があとを絶たず、海中にはホワイトチップシャークの死骸が数匹横たわっていました。

ある時の早朝、シーハンターからポイントへ行く途中、密漁者が仕掛けたラジコンとハエナワの釣り糸を発見し、ガイドが我々に了解をとってダイビング時間を遅らせて沢山回収し、レンジャーに連絡をしていました。

プンタレナス港からココ島までシーハンターでは32時間、密漁船は20時間、レンジャーは16時間で行くそうです。シーハンターにも国のレンジャーが全行程乗り込み13人で3隻(シーハンター、アンダーシーハンター、オケアノスアグレッサー)を交代制で監視しているそうです。

尚、今回は往復とも外洋の波高が小さかったので船酔いが全くなくラッキーでした。

『陸の観光』

1. ニコヤ半島プラヤ・オスティオナル(8/24~25)

往きの飛行機が満席でしたので、サンホセからバスで5時間、そこから街灯のない真っ暗な森の中を4WD車でないと行けない、岩を砕いたままの石の悪路を2時間半飛び跳ねながら、途中で橋のない川を3本渡ってやっと着きました。

目的は長さ約1km幅50mの海岸に体長約70cmのヒメウミガメ数十万頭が大産卵する「アリバダ」という現象を見るため、早朝5時頃に起き海岸に行くと既に村人が沢山来ていて、数十頭ほどが産卵していました。

アリバダとはスペイン語で『やって来る』の意味で「下弦の月」の日とその前後3日間づつ現れ、ピークの時には6畳に3~4頭が足の踏み場がないほど産卵しているそうです。見れるシーズンは5月~11月ですが、もっとも多いのは9月~11月です。

世界中に8箇所ほどある産卵場所の中で、ここが最大です。

一斉に産卵できる理由は甲羅の裏側にある3つの穴から分泌する物質から分かるそうです。ウミガメの数よりもハゲタカと村人の数の方が多いのにビックリしました。

カメが余りにも多く産卵するため、後から来たカメが前のカメの卵を掘り返すので、その前に村人が採って売り、村の1年分の収入になるそうです。(国が許可しています)

産卵そのものは感動的ですが、産卵中のカメの足や頭をハゲタカが突ついたり、産んだ卵を掘り返して食べたりし、また大勢の村人がせっせとカメが産卵した跡を探して掘り返す姿を見ると、感動よりも大自然の厳しさと惨たらしさと壮絶さを感じました。

2. カニョ・ネグロ野生保護区 (8/26~27)

サンホセから小型飛行機でフォルツーナと云う小さな町で降り、フォルツーナからアレナル火山の側を通過して車で北へ2時間ほどのニカラグア国境近くにある川をボートで観察するツアーで、ボルネオ島奥地のテングザルのいるスカウに似ていました。

鳥、サル、トカゲ、イグアナ、カイマン等の野生生物が多く生息しています。サルはノドジロオマキザル、スパイラルモンキー、ホエザル、ナマケモノ等。鳥はトゥーカン、シラサギ、タカ、ワシ、カワセミ、鶺鴒、その他、種類が非常に多い。

本命は世界一美しいトカゲと云われているグリーンバシリスクでラッキーなことに沢山見れました。

ホテルからボートまでの往復の道路横の木にナマケモノがいたり、大きなイグアナが沢山いる木があったりして自然が100%ピュアなところですよ。

3. モンテベルデ自然保護区 (8/28~30)

フォルツーナから途中の町まで普通車で3時間、そこから4WD車に乗り換えて岩を砕いたままの石の悪路を、またまた飛び跳ねながら2時間かかってやっと着きました。

目的はケツァールと言う鳥でコスタリカの雲霧林とグアテマラに住み、手塚治虫の漫画『火の鳥』のモデルで、マヤ文明の神様の化身になり、またグアテマラの国鳥で通貨の単位にもなっている世界一美しいと言われている鳥です。

モンテベルデは気候がいつも雲や霧に覆われた熱帯雲霧林の中にあり、ベストシーズンは3月~5月で、この時期の見れる確立が20%でしたが、ラッキーなことに数匹が樹幹の間を飛びまわっていました。

ビデオのズームよりも単眼望遠鏡で見ると鮮やかな真紅のお腹と青緑色の羽、緑色の長い尾っぽがはっきりと見え、とても美しい鳥だと実感できました。

約50年間研究しているイギリス人に話を聞くとコスタリカとグアテマラのケツァールは尾っぽの長さ等種類が違うことが分かりました。

この雲霧林のほうがココ島よりもジュラシック・パークのイメージがして樹間の向こうから恐竜が出てきそうな不思議で幻想的な世界でした。

余談ですが、ここのコーヒーはコスタリカで一番美味しいと、在住日本人の評価で首都サンホセには出荷してなく、当然海外には輸出していません。

『コスタリカの現状』

『中米の花園』、『中米のスイス』と呼ばれ、国土の約25%が国立公園及び保護区に指定された環境保護先進国で、最近ではエコツアー分野でも世界の最先端をいっています。

サンホセ以外はどこへ行っても見渡す限り緑一色で、森と野生動物の国でした。

印象的だったのは、どこへ行っても人々が笑顔で、小さい女の子の顔がとても可愛らしく、特に女性の目が非常に魅惑的で吸い込まれそうな目をしていました。

北はニカラグア、南はパナマに挟まれた(四国と九州を合わせた)小さい国で人口400万。その内、密入国したニカラグア人が100万人に増え、金融関係の建物の前には銃器で武装したガードマンが増えていて、10年前には見られなかった光景だそうです。

アメリカ大陸を縦断するパンアメリカンハイウェイが国の真中の高地を走っているため、

雨期の激しい雨で薄い舗装道路(予算がないため)は半端でない大きさの穴ぼこだらけで、分離帯もなくドライバーは対向車よりも道路に非常に神経を使います。

また、一旦事故が起きると法規上、車を移動させてはいけないため、たちまち渋滞し、国内を縦断できる道はこの一本しかないため、生活物資の輸送に支障をきたします。

現在、平地の海岸沿い国道を数年ほど前から検討中ですが、財政不足で完成までに何年かかるか分からないそうです。

尚、この国は日本と反対で法律上、車優先社会のため歩行者は十分に注意が必要です。また、日本円は現地で両替できません。

国のレンジャーは月収500ドル、サンホセのタクシードライバーは300ドル、今回のシーハンターのダイブクルーズ費用は約3,000ドルで彼らの半年分或いはそれ以上に当たり、プンタレナス帰港時には沢山の見物人が来ていました。

『飛行機事故』

現地(コスタリカ) 8/26 (日本時間 8/27) サンホセ発タマリンド行きサンサ航空の国内線小型飛行機が、途中のフォルツーナを飛び立った約10分後、コスタリカで最もアクティブなアレナル火山(1640m)の頂上から下、約200mの場所に激突し乗客8名パイロット2名の10名全員が死亡しました。フォルツーナで降りたのは私1人だけでした。

翌日の新聞には私の写真が大見出しで掲載され、狭い国で一躍有名になり、どこへ行ってもその話でした。

8/27 は私の誕生日でコスタリカの新聞には『生まれ変わった人』として報道されました。墜落は撮影していませんが、フォルツーナでの着陸、離陸の一部始終をビデオに撮影していましたのでテープを現地でコピーし、航空会社へ提供したところ、翌日のテレビにすべてが即オンエアされました。今、無事に生きて帰れたことを感謝しています。

『参考』C o s t a R i c aとはスペイン語で『豊かな海岸』の意味で、発見者のコロンブスが命名しました。

- 1502年 コロンブスにより発見
- 1540年 スペインの県となる
- 1821年 スペインから独立(9月15日)
- 1848年 共和国として独立
- 1949年 軍隊の廃止
- 1983年 永世非武装中立宣言

『あとがき』

今回のコスタリカは8 / 12 ~ 9 / 3 (23日間) で、今までの最長記録でしたが、今まで25回以上、約20ヶ国を旅した中で、海も陸も空も何もかも、最もインパクトが強い旅でした。おそらく一生忘れない思い出として、いつまでも心に残るでしょう。

今回の旅行をバックアップして戴いた以下の皆様及び関係者の方々に心から感謝しています。

クラブアイランダー 9月廃業)	平井様	(ココ島ダイブクルーズ日本総代理店: 2006年
レジェンド トラベル	プリンス様	(国際線チケット、ホテル予約旅行会社)
さくらツアーリスト	下村様	(コスタリカ在住の国内旅行会社)

以上
浜谷 優